

入院紹介から入院決定に要した日数と要因の分析

～入院調整日数短縮への取り組み～

はじめに

地域医療連携室では、以前から入院相談日から7日以内に入院調整することを目標としており、その目標が達成できているか、またそれを阻害する要因を分析する研究を行った。

目的

入院を早期に調整することで、当院での療養やリハビリを必要とする患者へ速やかに医療を提供することができる。また、早期の入院調整を阻害する要因を分析することで、業務改善につなげる。

方法

(1) 対象者と調査期間

対象者：第1期、第2期の期間に入院調整を行った患者

第1期：2024年12月01日～2025年05月31日

第2期：2025年07月01日～2025年12月31日

(2) 調査・分析

①第1期の入院決定に要した日数を抽出し、8日以上要した要因を項目別に分類

②入院調整短縮のための改善策を協議。改善策5項目を導入（詳細は本発表にて報告）

③改善策を導入後、第2期の入院決定に要した日数を抽出。8日以上要した要因を項目別に分類

④①と③を比較分析

結果

入院調整に要した日数は、改善策を導入した後の方が0.91日短縮することができた。

8日以上要した要因は、改善策導入前後に大差はなく「家族：日程都合」「患者：病状」の割合が多かった。

考察・結論

改善策を導入後は、入院相談から7日以内に入院日の決定を行うという意識付けが強くなり、日数を短縮することができた。一方で入院調整に8日以上要した要因については、改善策導入の影響は確認できず、内部要因（当院都合）よりも、外部要因（家族都合・病状・紹介減少時期・感染等）が大きいことが明らかになった。今後は年間でこの調査を継続し、早期の入院調整を目指して取り組んでいきたい。